動 物 実 験 計 画 書

量子科学技術研究開発機構 理事長 殿

　　　　　西暦

　　　　　　　　西暦

□新規（　　 年度）

□変更（　　　-　　　　　　 -　　 ）

提出日：　　　　年　　　　月　　　　日

□HIMAC利用研究

（研究課題番号：　　　　　　　）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 千　葉　地　区 | | | | |
| 動物実験  責任者 | 所属長  (共同研究者) | 所属部長等 | 生物資源管理課長 | 動物実験委員会事務局 |
|  |  |  |  | 受付日　：　 年　　　月　　日  受付番号： |

|  |  |
| --- | --- |
| 研究課題名 |  |
| 研究目的 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 動物実験責任者名 |  |
| 所属 |  |

|  |
| --- |
| 動物実験実施者名及び所属 |
|  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 実験実施期間 | 西暦（中長期計画期間内かつ最長5年度以内）  　　承認後　　～　　　　　年 　　月 | | 中止・終了等 | 西暦  　年　　　月　 日 |
| 施設等  (該当項目を  すべて■) | □ | 実験動物施設 ：  飼育方法 ：□個別飼育　 　□群飼育 (１ｹｰｼﾞあたりの匹数：　　匹) | | |
| □ | 動物実験室 ：  一時的保管時間96時間：□超えない　　□超える（動物実験室：　　　　　　　　）  （96時間を超える場合の必要性・対応法：  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | |

|  |  |
| --- | --- |
| 特殊実験区分(該当項目を  すべて■) | □放射性同位元素使用実験  □MRI装置使用実験  □放射線照射実験  □遺伝子組換え生物等実験\*1:  □P1A　 　□P2A （計画書承認番号：　　　　　　　　　　 ）  □実験計画書申請中  □特定有害物質投与実験\*2  　　（有害性：急性毒性、反復毒性、腐食性、刺激性、感作性、変異原性、発がん性、  生殖毒性、重金属による有害性）  □研究用病原体等実験（感染実験）\*1:  □BSL1　 □ABSL1 （取扱い届出書：□提出済 　□提出予定）  □BSL2　 □ABSL2 （計画書承認番号： 　　　　 ） □実験計画書申請中  □霊長類を用いた実験 |
| ＊１ 関連資料を添付すること　　 ＊２ 安全情報を添付すること |
| 動物実験の種類  (該当項目を■) | □試験・研究  □教育・訓練  □その他(具体的に記入: 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ) |

|  |  |
| --- | --- |
| 動物実験の  代替  (該当項目を  すべて■) | □動物実験の代替を検討したが、  □替わる手段はなかった。  □代替手段の感度・精度が不十分であった。  □その他（具体的に記入:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  　　検討事項：  □in silicoによる解析（コンピュータシミュレーション）  □in vitro実験（例えば培養細胞による実験など）  □系統発生的に下位の生物種への置き換え  □その他（具体的に記入: ） |
| 使用動物数の  削減  （該当項目を  すべて■) | □動物数削減のため以下の事項について配慮した。  　　配慮事項：  □求める結果を得るために必要かつ不可欠な動物数  （例えば適正な結果を得るために統計処理が必要で、その最小数など）  □同一実験の繰り返し数  □その他（具体的に記入:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 動物に対する  苦痛の軽減  (該当項目を  すべて■) | □動物にほとんど或いはまったく不快感を与えないので、苦痛の軽減処置をしない。  □科学上の目的を損なわない苦痛軽減法はなく、処置を講じることができない。  　　　（理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  □苦痛軽減のために以下の事項を実験方法の該当欄に記載した。  □麻酔薬・鎮痛薬・鎮静薬等を使用、使用薬物名：  □その他（具体的に記入:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  □適切な時期に安楽死措置などの人道的エンドポイントが必要なため、実験方法の該当欄に記載した。  □その他（具体的に記入:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |

|  |  |
| --- | --- |
| 実験動物の  安楽死方法  （該当項目を  すべて■） | □麻酔薬等の使用  　　薬物名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　投与経路：  　　薬剤濃度：　　　　　　　　　　　　　　　　　　投与容量：  □炭酸ガス吸入  □頸椎脱臼  □麻酔下状態で実施、使用薬物名：  □実験上必要不可欠で、無麻酔で行う。実施は熟練者が行う。  　　(理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)  □断首  □麻酔下状態で実施、使用薬物名：  □実験上必要不可欠で、無麻酔で行う。実施は熟練者が行う。  　　(理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)  □その他  　　(具体的に記入: ) |
| ＜人道的エンドポイントを適用した安楽死＞  □上記の方法と同様に行う又は可能性がある  □行う又は可能性があるが、上記の方法と異なる  　（具体的に記入: )  □行わない  （行わない理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  □該当しない |
| 動物死体の  処理方法  （該当項目を  すべて■） | □凍結保存後焼却（所内の所定施設にて凍結保存、焼却は外部委託）  □ホルマリン液等で固定後標本として保存  □ＲＩ廃棄物として処理  □外部業者に依託  □その他 （具体的に記入: ） |
| 実験動物導入  申請の確認  （該当項目を■） | 申請　　　□あり　　　 □なし  □申請中　　 □申請予定  □承認済み（承認番号：　　　－Ａ　　　　）  □動物の輸送は専門業者に依頼する（予定輸送業者名：　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| その他必要  又は  参考事項  （該当項目を■） | 麻薬の使用　　□あり　（以下に麻薬研究者氏名及び免許証番号を記入）　　　 □なし  　　 (氏名:　　　　　　　　　　 　　　　免許証番号：　　　　　　　　　）  実験動物の外部機関への搬出　　□あり　　　　□なし  遺伝子組換え動物　　□P1A　 　　□P2A　 　　□非該当  □動物の輸送は専門業者に依頼する（予定輸送業者名：　　　　　　　　　　　　　　　　） |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 使用動物 | 動物種 | 系統 | 遺伝子組換え | 性別 | 週(年)齢 | 匹数 | 微生物学的品質 | | | 入手先  （導入機関名） |
| SPF | CV | その他 |
|  |  | □ |  |  |  | □ | □ | □（　 ） |  |
|  |  | □ |  |  |  | □ | □ | □（　　　 ） |  |
|  |  | □ |  |  |  | □ | □ | □（　 ） |  |
|  |  | □ |  |  |  | □ | □ | □（　　 ） |  |
|  |  | □ |  |  |  | □ | □ | □（　 ） |  |
|  |  | □ |  |  |  | □ | □ | □（　 ） |  |
| 使用動物数の根拠： | | | | | | | | | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ＜実験方法の概要＞ | | |
| 実験方法　（動物への処置、使用動物数は必ず具体的  　　　　　　　　かつ簡潔に記入する) | 苦痛の  カテゴリー  （処置毎） | 動物の苦痛軽減・排除方法  （必要に応じて人道的エンドポイントを記入する） |
| 以下に例示した表を参考に、使用動物数等の内訳表を作成すること。  実験１   |  |  |  | | --- | --- | --- | |  | 動物数（系統） | | | ♂ | ♀ | | 対照群 |  |  | | 処置群Ⅰ |  |  | | 処置群Ⅱ |  |  |     実験１における使用匹数：　　匹／回　×　　回  ＊F1動物を作出して実験に使用する際は、交配する親系統とその数、必要なF1数、淘汰するF1数を本文中に明記すること。 |  |  |

| 実験方法つづき | 苦痛の  カテゴリー  （処置毎） | 動物の苦痛軽減・排除方法  （人道的エンドポイント） |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |